居心地のよい学級づくりのための
授業における生徒指導の工夫

**―― 児童の「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を促す
授業支援シート「Ｔ－knackシート」の作成を通して ――**

長期研修員　　髙井　美智代

《研究の概要》

本研究は、児童の「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を促す生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート「Ｔ－knackシート」を作成し、授業で実践することで、居心地のよい学級づくりを目指すものである。まず、C&S質問紙と生徒指導の三機能に関する自己評価シートを実施して、集団と個の実態を把握する。次に、実態から課題の見られる機能を高めるための授業支援を「Ｔ－knackシート」から意図的・計画的に取り入れ、授業を実践する。このことによって、児童がやる気を出し、より良い人間関係が築け、居心地のよい学級集団の育成に効果のあることが分かった。

キーワード　【学級経営　授業　生徒指導　自己存在感　共感的人間関係　自己決定】

群馬県総合教育センター
分類記号：Ｅ０３－０３　平成２６年度　２５２集

Ⅰ　主題設定の理由

児童にとって、学校生活の基本は授業である。また、教師が毎日の教育活動の中で児童と多くの時間を共有するのも、授業である。児童一人一人に楽しく分かる授業を実感させることは、教師に課せられた責務であり、授業を充実したものとして成立させるために積極的な生徒指導が重要な意義を持っている。

小学校指導要領総則（文部科学省）では、「日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」としている。また、生徒指導提要（2010）では、「児童生徒の意欲的な学習を促し、本来の各教科などのねらいの達成や進路の保障につながる生徒指導」を挙げている。さらに、社会的な自己実現や自己指導能力の育成を目指す生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図ることの必要性を述べている。その中で、生徒指導の三機能「自己存在感を与えること」「共感的人間関係を育成すること」「自己決定の場を与えること」に特に留意することが求められている。

全国学力・学習状況調査（2013）で、群馬県は、「自分の行動や発言に自信を持っている」の問いに「そうである」と答えた児童が15.9%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」では16.8%と、どちらも全国平均をやや下回った。これらのことから、自分に自信が持てず思っていることが言いにくい学級の雰囲気に課題があることが分かった。研究協力校による同調査では、自分の考えを記述する問題で無回答が目立ち、応用力や学習に対する意欲に課題があることが分かった。また、日常の授業では、ペアやグループ学習の際、自分の考えが言えず自己決定ができないことや、言ってはみたものの互いを認め合う関係まで至らず、成就感や達成感が得られていないという課題も明らかになった。

一方、教師の課題として、授業に生徒指導の三機能を生かした手立てを取り入れているベテランや中堅の教師はいるものの、個々の教師の経験則に任されていることが挙げられる。若手教師からは、「『自己存在感』という言葉を初めて聞いた」という声もあり、生徒指導の三機能が十分認識されぬまま授業を行っているという課題が挙げられる。これは、第２期群馬県教育振興基本計画（2014）の課題である「今後10年間に退職者数がピークとなることから、学校運営の中核となる中堅教職員や若手教職員への対応、教員の資質向上を図ること」とも関連する。このことは、ベテランや中堅教師の経験則に任された生徒指導の手立てを若手教師に伝授することの必要性を意味していると考える。そこで、ベテランや中堅の教師が授業に取り入れている生徒指導の手立てを収集したり分類したりしたものを若手教師に提供すれば、授業における生徒指導の三機能を意識した支援をすることができ、授業の充実を図ることができると考える。

本研究では、授業における生徒指導の三機能と関連させた「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を実感できる児童の育成を目指したいと考えた。そこで、このような児童を育成するために、授業における生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シートである「Ｔ－knackシート」を作成し、教師が授業で意図的・計画的に取り入れ、実践することで、授業が充実し、児童の学習意欲が高まり、児童が安心して自分の思いや考えを表現できる居心地のよい学級集団を育成することができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

授業における生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート「Ｔ－knackシート」を作成し、授業に意図的、計画的に取り入れることを通して、児童の「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を促し、居心地のよい学級集団を育成することの有効性を明らかにする。

Ⅲ　研究の内容

１　基本的な考え方

(1)　「居心地のよい学級」について

児童は、教師や学級の仲間から受容されたり共感されたりすることで、安心して自分の思いや考えを表現することができ、自分に自信を持つことができる。そして、他者に受容された安心感や達成感から他者にも同様の感情を与えられるようになり、より良い人間関係を築くことができる。このような二つの要素を備えた学級のことを、「居心地のよい学級」と定義する。

（2）　授業における生徒指導について

授業における生徒指導とは、各教科のねらいを達成するために、一人一人の児童を生かした創意工夫ある指導を行い、全ての児童に自己指導能力が育成されることである。これは、教科指導において、全ての児童が自分の思いや考えを表現し、課題解決をしていく自己指導能力の育成を目指す積極的な生徒指導の推進が、いじめなどの問題行動を未然に防ぎ、居心地のよい学級集団を育成することにつながると考える（図１）。

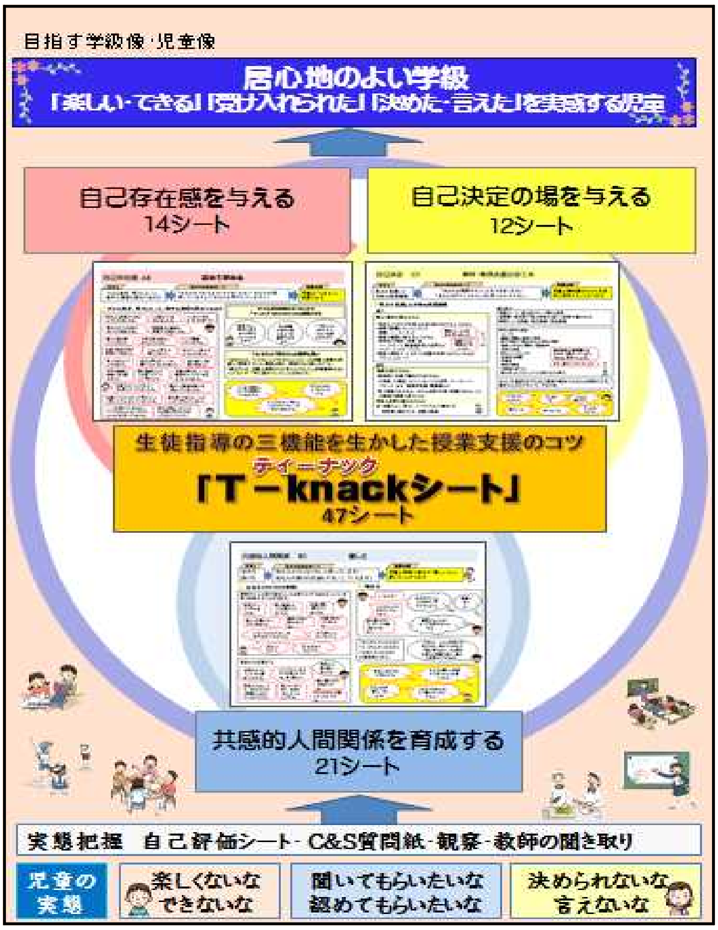


図１　研究構想図

（3）　「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を身に付けた児童について

「楽しい・できる」とは、自分自身の考えや行動について認知し、自信となることである。「受け入れられた」とは、教師に認められ学級の仲間と認め合うことで、より良い人間関係が築けることである。「決めた・言えた」とは、課題に対して自分の思いや考えを選択し、決定することである。これらの三つは、生徒指導の三機能「自己存在感を与えること」、「共感的人間関係を育成すること」、「自己決定の場を与えること」を生かした手立てによって育成される児童像である。生徒指導の三機能をバランスよく満たすことで、他の人のことも考えながら、自分で考えて、決めて、行動することができると考える。

２　先行研究とのつながり

（1）　東京都教職員研修センター「子供の自尊感情や自己肯定感を高めるためのQ&A」（2012）との関わり

この研究では、「自尊感情や自己肯定感を高めることは、子供の自信、やる気、確かな自我を育てる」と記しており、自尊感情の実態把握をするために「自己評価シート」というアンケートを実施している。アンケートの質問項目は、「A　自己評価・自己受容」、「B　関係の中での自己」、「C　自己主張・自己決定」の三つの因子から構成されており、生徒指導の三機能に置き換えてみることができる。このアンケートを集計すると、生徒指導の三機能の傾向や課題の見られる機能を把握することができるため、本研究においても実態把握にこのシートを活用することにした。本研究では、データの入力作業を短時間で効率よく処理できるようにSQS（普通紙マークシート方式による調査票作成・読み取り集計ソフトウェア）でアンケート用紙を作成した（資料編を参照）。また、アンケートの結果を受けて、傾向や発達段階に応じて意図的・計画的な指導をする際に必要となる「自尊感情を高めるための指導上の留意点」を参考に、「自分のことを高めるための指導上の留意点」

を作成した（資料編を参照)。

(2)　岩手県立総合教育センター「授業が変わる、生徒が輝く」(2005)との関わり

この研究は、中学校の授業で生徒指導の三機能を生かした指導を行うための具体的な手立てや注意点をまとめた手引きを作成した研究である。この手引きは、理論編、実際編、活用編の三部構成になっている。

理論編では、筑波大学の桜井教授(1997) が挙げる学ぶ意欲を支える三要素（自己決定感、有能感、他者受容感）は、生徒指導の三機能に置き換えてみることができ、生徒は、「教師や学級の仲間など周囲から受け入れられるからこそ、自分なりの考えを持ったり、行動したりすることができるということです。また、自分の存在が認められ、自分は役に立っているという有用感を味わうことができるということです」と、学習意欲の向上に生徒指導の三機能を生かした学習指導が心理学の面からも有効であると述べている。

実際編では、中学校における授業を想定し、三機能に分類した手立てを10項目ずつ、合計30項目紹介している。この手立ては、生徒への言葉かけが一部紹介されているが、教師からのより具体的な言葉かけを中心に、生徒同士の学び合いの仕方など、人との関わり合いに関する手立てが追加されると更によいと考えた。そこで、本研究では小学校の授業を想定し、教師が授業ですぐに活用できる言葉かけや教師の児童に対する姿勢、児童同士の学び合いなどを中心に整理し、「Ｔ－knackシート」を作成する。

活用編では、授業の具体的な場面を一部取り上げて紹介している。本研究でも授業において意図的に手立てを取り入れた実践例を紹介する。

３　教材の概要

(1)　「自己評価シート」について

表１　「自己評価シート」質問項目

因　子	尺度	No.	項目
自己評価 自己受容	自己への満足	1	わたしは、今の自分でよいと思う
	自己愛	4	わたしは、自分のことが好きである
	自己の価値	7	自分はダメな人間だと思うことがある
	自己の価値	10	あなたは自分を大切に思える
	自己愛	13	あなたは今の自分がきらいである
	自己の価値	16	自分にはよいところがある
	自己の存在感	19	自分はだれの役にも立っていないと思う
	自己の価値	22	わたしは自分のよさをのばそうと努力している
関係の中での自己	傾聴の態度	2	人の意見をすなおに聞くことができる
	他者への貢献意欲	5	わたしは人の役に立ちたい
	他者への共感･理解	8	わたしはほかの人の気持ちがわかる
	自己の理解者の存在	11	あなたには自分のことをわかってくれる人がいる
	他者への貢献意欲	14	みんなにめいわくをかけないよう一度決めたことはしっかりやる
	他者への感謝	17	自分のことを見守ってくれている人々にかんしゃしている
	他者の存在認識	20	わたしには自分のことを必要としてくれる人がいる
自己主張 自己決定	自己主張	3	みんながちがうことを言っていても、自分が正しいと思うことは言える
	自己の可能性	6	あなたにはできることがたくさんある
	自己信念	9	あなたは自分の決めたことやすることが正しいと思える
	自己理解	12	わたしは自分のよいところも悪いところもよくわかっている
	自己主張	15	わたしにはだれにも負けないこと（もの）がある
	自己決定	18	わたしは自分のことは自分で決めたいと思う
	個性の尊重	21	わたしはみんなとちがう自分を大切にしたい

※№は、アンケートの番号

アンケートの質問項目（表１）は、「A 自己評価・自己受容」、「B 関係の中での自己」、「C 自己主張・自己決定」の三つの因子から構成されており、生徒指導の三機能と置き換えてみることができるので、集団や個の実態把握に有効であると考えた。この「自己評価シート」を集計すると、図２のようなレーダーチャートとして表され、集団の傾向を把握することができる。このレーダーチャートの各機能は４が最高値にな

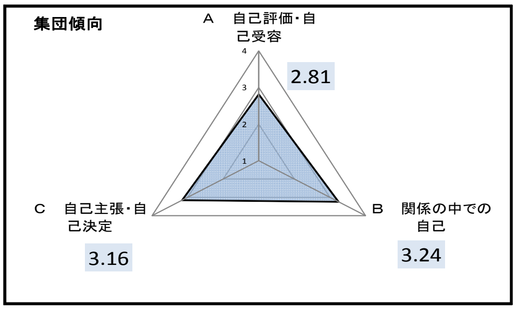
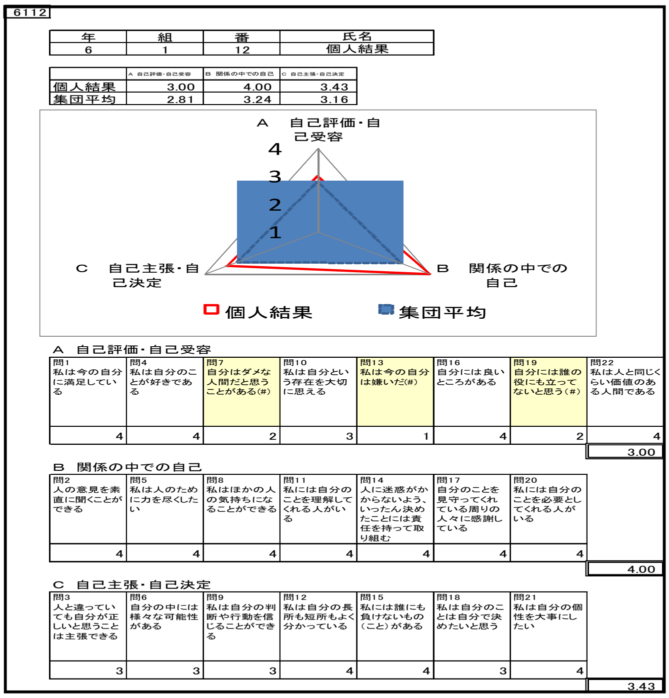


図２　「自己評価シート」の集団結果の例

っており、頂点が外側にいくほどその機能が高いと言える。

まず、レーダーチャートは、全体の大きさを見て、生徒指導の三機能の傾向を把握する。次に、各機能の中で課題が見られる機能を把握する。

また、個人票（図３）を活用することで、個人の生徒指導の三機能の傾向が把握できる。さらに、各項目の回答結果も表示されるため、個別指導に生かすこともできる。個人票のレーダーチャートには、学級や学年の集団平均が青線、個人の結果が赤線で表示されるたの、集団と個の比較が容易にできるようにした。


6112

年	組	番	氏名
6	1	12	個人結果

	A 自己評価・自己受容	B 関係の中での自己	C 自己主張・自己決定
個人結果	3.00	4.00	3.43
集団平均	2.81	3.24	3.16

A 自己評価・自己受容

問1	問4	問7	問10	問13	問16	問19	問22
私は今の自分に満足している	私は自分のことが好きである	自分はダメな人間だと思うことがある(#)	私は自分という存在を大切に思える	私は今の自分は嫌いだ(#)	自分には良いところがある	自分には誰の役にも立ってないと思う（#）	私は人と同じくらい価値のある人間である
4	4	2	3	1	4	2	4
							3.00

B 関係の中での自己

問2	問5	問8	問11	問14	問17	問20	
人の意見を素直に聞くことができる	私は人のために力を尽くしたい	私はほかの人の気持ちになることができる	私には自分のことを理解してくれる人がいる	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組む	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	私には自分のことを必要としてくれる人がいる	
4	4	4	4	4	4	4	
							4.00

C 自己主張・自己決定

問3	問6	問9	問12	問15	問18	問21	
人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	自分の中には様々な可能性がある	私は自分の判断や行動を信じることができる	私は自分の長所も短所もよく分かっている	私には誰にも負けないもの（こと）がある	私は自分のことは自分で決めたいと思う	私は自分の個性を大事にしたい	
3	3	3	4	4	3	4	
							3.43

図３　「自己評価シート」の個人票の例

(2)「Ｔ－knackシート」について

「Ｔ－knackシート」とは、授業における生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シートのことである。「Ｔ－knackシート」の「Ｔ」は先生、「knack」はコツの意味で、「先生の授業におけるコツ」となり、教師が授業で活用できるような言葉かけや教師の児童に対する姿勢、児童同士の学び合いを中心に整理した授業における生徒指導が意味する具体的な手立てが書かれている。

表２　「Ｔ－knackシート」一覧表

	A 自己存在感を与える	B 共感的人間関係を育成する	C 自己決定の場を与える
	自己評価･自己受容	関係の中での自己	自己主張･自己決定
項目	A1 顔を観る	B1 優しさ	C1 教材･教具の提示の工夫
	A2 名前を呼ぶ	B2 厳しさ	C2 発問の工夫
	A3 発言の受け止め	B3 一人一人の児童を大切にする	C3 考えたり観たりする視点の提示
	A4 ほめる	B4 児童への接し方	C4 指示･説明
	A5 認めてほめる	B5 学習の規律	C5 一人学びの設定
	A6 期待する･励ます	B6 教師の｢聴く｣	C6 個に応じた指導
	A7 存在感をもたせる	B7 ありのままの児童を受け入れる態度	C7 学習スタイルの選択
	A8 やる気を促す対応	B8 児童同士の聞き合い	C8 ペア･グループ学習
	A9 発問の工夫	B9 教師の｢つなぐ｣	C9 自分の考えを発表する
	A10 机間指導	B10 授業の開始時刻と終了時刻を守る	C10 教育機器の活用
	A11 一人一人の児童を生かす	B11 ペア･グループ学習	C11 振り返り
	A12 ペア･グループ学習	B12 話合いの仕方･評価	C12 ノート指導
	A13 多様な考えにふれさせる	B13 机間指導	
	A14 適切な評価	B14 学習環境の設定	
		B15 安全な生活	
		B16 板書計画	
		B17 声を出す習慣	
		B18 相互評価	
		B19 教師からの評価	
		B20 指名の仕方	
		B21 児童の進度を見る	

自己存在感を与える支援を14項目、共感的人間関係を育成する支援を21項目、自己決定の場を与える支援を12項目の合計47項目で構成した。そして、一項目の支援についてＡ４版横一枚のシートにまとめ、合計47シートで構成した（表２）。各シートの構成を同じように揃えることにした。次頁の図４のように、各シートの最上部には、三機能の項目、支援の項目を示した。その次の下部で、

「具体的な手立て」、「伝えられるメッセージ」、「期待される児童の姿」の三つで構成し、「この手立てを参考に授業を行うと、このような児童を育成することができます」と表した。さらに、その下の部分に、具体的な手立てを取り入れる際の教師の言葉かけや効果、注意点などを記載し、右下部には、この手立てから期待される「児童の思い」を吹き出しにして書き表した。

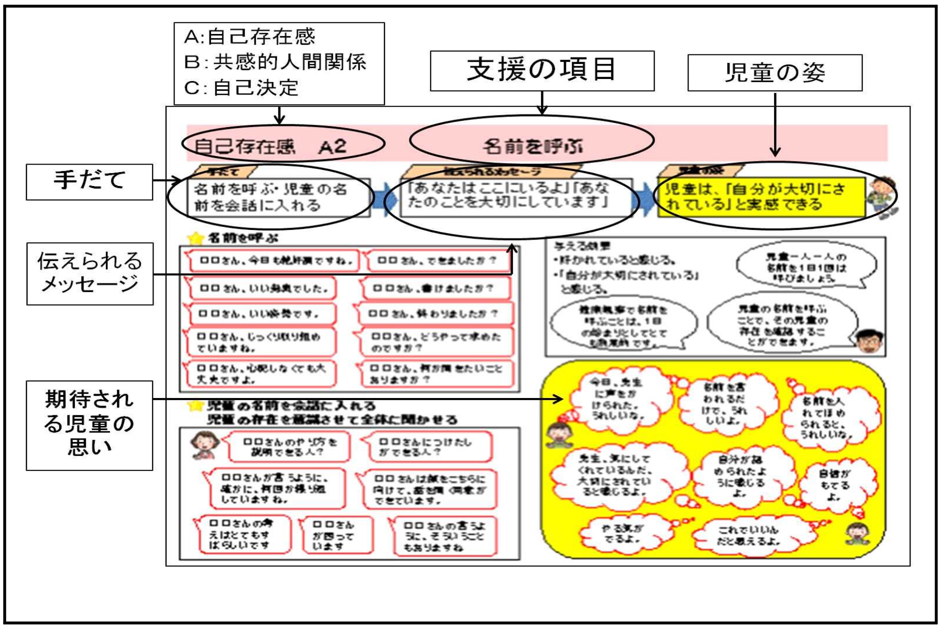


図４　「Ｔ－knackシート」

Ⅳ　研究の計画と方法

１　実践の概要

生徒指導の三機能に関するアンケート「自己評価シート」と集団と個の実態を把握するためのアンケート「C&S質問紙」を研究協力校第５・６学年で実施し、生徒指導の三機能の傾向や課題の見られる機能を把握する。そして、課題の見られる機能を高めるための授業支援を「Ｔ－knackシート」から意図的に取り入れ、授業を実践する。一定期間授業実践した後にアンケート調査を行い、児童の変容を見取る。

２　検証計画

検証項目	検証の視点	検証の方法
見通し１	「Ｔ－knackシート」を参考に、授業に意図的・計画的に手立てを取り入れ、実践することは、児童の「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を促し、居心地のよい学級集団を育成する上で有効であったか。	・自己評価シート・C&S質問紙 ・授業中の行動観察・ノートの記述 ・学習後のアンケート(児童) ・「Ｔ－knackシート」作成過程における研究協力校教員、長期研修員への聞き取り調査 ・「Ｔ－knackシート」参考後の研究協力校教員への聞き取り調査
見通し２	「Ｔ－knackシート」は、教師が授業における生徒指導を意識して取り組む上で有効な資料集となったか。	

３　実践

(1)　実態把握

実践前の６月に、「自己評価シート」を研究協力校の第５・６学年で実施・分析し、生徒指導の三機能の傾向や課題の見られる機能を明確にした。

まず、第５学年のレーダーチャート全体の大きさ（図５）は、約７割の三角形で全体のバランスがよかった。各機能の数値を見ると、「C 自己主張・自己決定」がやや低いので、「Ｔ－knackシート」の「C 自己決定」を意図的に取り入れる必要があることを把握した。次に、担任に個人票を提

示した。担任から、「日頃の児童の様子とレーダーチャートが一致している。改めてデータで見ると、児童のことを客観的に捉えることができる。これを基に意識して言葉かけができそう」といった感想を得ることができた。

第６学年のレーダーチャート（図６）は大きな三角形で、良好な結果であると考える。各機能で大差はないが、「A 自己評価・自己受容」の数値がやや低いので、「Ｔ－knackシート」の「A 自己存在感」を意図的に取り入れる必要があることを把握した。また、担任に個人票を提示し、全観点の低い児童や三観点の傾向に改善が必要と思われる児童に対して、特に授業で意識して支援するよう助言した。

次に、「C&S質問紙」を行った。第５学年（表３）では、自分自身のことに関する質問では、９割近い児童が「あてはまる」や「ややあてはまる」と肯定的な回答をしており、今の自分に満足していることが分かった。

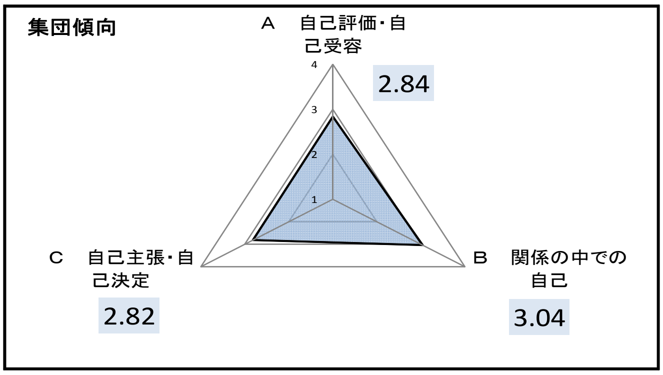


図５　「自己評価シート」の５年の結果

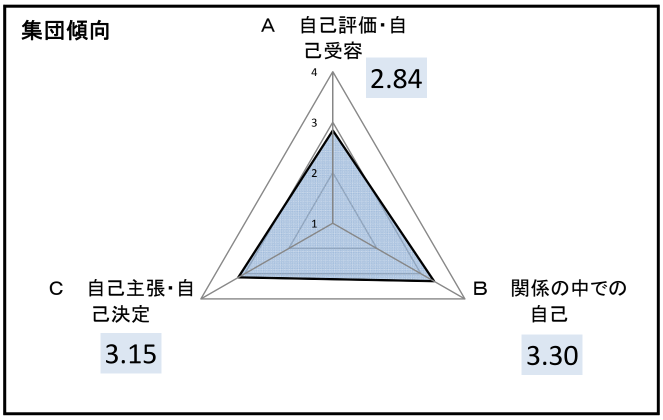


図６　「自己評価シート」の６年の結果

一方、学級のことに関する質問では、約８割の児童が友達同士で相談し合うと答えているものの、何でも話せる雰囲気があると答えている児童は約６割にとどまり、仲のよい人とは話せるが、普段接する機会の少ない人や全体の前で話すことに抵抗を感じているのではないかと考える。

自己決定に関する質問では、約７割の児童が自分の決めたことに自信を持っているものの、約半数の児童が集団決定する際、戸惑いを感じていることが分かった。

表３　C&S質問紙によるアンケート調査　（５年）

自分自身のこと	自分にはよいところがある	97%
	自分を大切に思える	91%
	今の自分でよい	87%
学級のこと	友達同士で相談し合う	76%
	このクラスには、何でも話せる雰囲気がある	57%
	友達が間違うと笑ってしまう雰囲気がある	31%
自己決定との関連	自分で決めたことやすることが正しい	70%
	新しいことになれるのに長い時間がかかる	44%
	自分たちで決めて実行することが難しい	53%

※　数値は、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合

表４　C&S質問紙によるアンケート調査　（６年）

自分自身のこと	もしできるなら、自分自身について変えたいことがたくさんある	72%
	ときどき自分がいやになる	70%
	今の自分とちがう自分になりたい	48%
	自分はだめな人間だと思うことがある	55%
	他の人たちに比べ、あまり好かれていない	44%
学級のこと	このクラスには、何でも話せる雰囲気がある	65%
	友達が間違うと笑ってしまう雰囲気がある	41%

※　数値は、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合

第６学年（表４）では、第５学年と比較して全体的に数値が低かった。その中でも、自分自身のことに関する質問で、今の自分を肯定的に受け止めていない児童が５割前後もいた。さらに、約７割の児童が自分に自信が持てなかったり自分のことで悩んだりしていること

が分かった。

学級のことに関する質問に関して、友達の失敗を笑う雰囲気やグループづくりでもめ事があると感じている児童がいることから、学級のルールの確認、学級の雰囲気の改善が必要であることが分かった。

以上のことから、第５学年では、自己決定をさせるために「Ｔ－knackシート」の「Ｃ５　一人学びの設定」を意識して取り入れて、どのやり方で答えを導き出すか自己選択させたり、「Ｃ９　自分の考えを発表する」で発表する場を意図的に設定したりするよう担任に助言した。さらに、「友達の話を黙って聞く」、「友達が誤答したときや答えられないときに笑わない」など、「Ｂ５　学習の規律」の徹底を意識するよう助言した。

第６学年では、自己存在感を与えるために、「Ｔ－knackシート」の「Ａ５　認めてほめる」、「Ａ６　期待する・励ます」、「Ａ８　やる気を促す対応」などを意識して取り入れるよう担任に助言した。また、「A12 ペア・グループ学習」を取り入れて、互いを認め合う場を設定するよう助言した。

(2)　重点的に取り組む生徒指導の三機能を取り入れた授業実践

①　実践１

算数は、正解・不正解が明確で自己肯定感や自己決定への影響が大きいと思われる教科である。このような教育相談的な関わりが有効な教科である算数で、６月から７月にかけて、第５学年は「合同な図形」、第６学年は「比と比の値」の単元で授業実践をし、検証した。

②　実践２

11月に、「Ｔ－knackシート」の汎用性を確かめるため、各教科の授業で実践し、検証した。

なお、実践１、２の詳細については、資料編を参照のこと。

(3)　児童の変容を見取るためのアンケート調査

６月の授業実践前後と11月の授業実践前後に、「自己評価シート」「C&S質問紙」を行った。加えて、授業実践後、児童が「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を実感したかどうか、児童にアンケート調査を行った。

４　開発した教材の改良

「Ｔ－knackシート」を研究協力校の全職員に配付し、「具体的な手立て」と「児童への効果」を意識して授業に取り入れて実践してもらうこと（８、９月実施）と「Ｔ－knackシート」をより使いやすくするための改良点を依頼したところ、口頭や記述（図７）でアドバイスをもらうことができた。

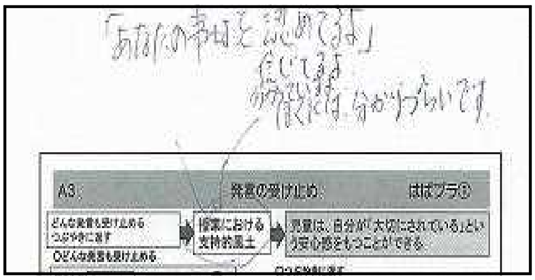


図７　「Ｔ－knackシート」に記入されたアドバイス

研究協力校の職員の感想として、「『Ａ８　やる気を促す対応』では、『話をじっくり聞いた方がいいかも』がいい」、「『Ａ９　発問の工夫』の『全員が答えられるような質問・発問』では、『思考が行き詰まったとき・集中が途切れたとき・単元末やテスト前の時間でも効果的』が参考になった」、「『Ｂ11 ペア・グループ学習』では、ペアを意図的につくることが大切だと分かった」、「『Ｃ４　指示・説明』の『時間はみんなの様子を見て声をかける』、『言葉だけの説明でなく、モデルを示したり実際にやって見せたりすることが大切』では、どの授業でもやっておくことが大事だと思う」、「『発問の工夫』、『指示・説明』、『教育機器の活用』、『振り返り』、『ノート指導、』は、具体的に書かれていてよいと思う。生徒指導の側面から見ると面白い」が挙げられた。

改善点として、シート上部の「『手立て』と『効果』のところで、有能感や成就感など抽象的な言葉が多いので、分かりやすい言葉にしてほしい」、『児童の姿』は児童の具体的な姿や児童に伝える具体的な言葉にしてはどうか」、「『効果』よりも他の言い方は何かないのか」、「生徒指導の三機能と類似した言葉である自己肯定感、自己有用感、達成感、成就感などの言葉が多数出てくるので、整理

してほしい」などの意見をもらった。

これらの意見を受けて、『効果』のところは教師から児童への『伝えられるメッセージ』に修正し、『児童の姿』のところは、『楽しい・できる』『受け入れられた』『決めた・言えた』に関する言葉を具体的に入れるよう変更した。

各シートに記載されている内容以外で、教師が実践している手立てを、追記してもらった。例えば、『Ａ３　発言の受け止め』では、「大勢の先生や保護者が見ているときよりも、個別指導で取り上げたり、教師が間違いを代弁したりする方がよい」や、『B11 ペア・グループ学習』では、「グループ活動のときの席の移動に時間がかかってしまうので、対応策を載せてほしい」といった意見や要望を基に、加筆修正を行った。

Ⅴ　研究の結果と考察

１　「Ｔ－knackシート」を参考にして、意図的・計画的に授業に取り入れ、実践することは、児童の「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を促し、居心地のよい学級集団を育成する上で有効であったか。

(1)　実践を終えてのアンケート調査の分析

「Ｔ－knackシート」を意図的・計画的に授業に取り入れたことで、児童が「楽しい・できる」「受け入れられた」「決めた・言えた」を実感したかどうか、児童にアンケートを実施した（表５）。

表５　アンケートの質問項目

1	この学習で「分かった・できた」と思えたときがあった
2	学習することは楽しい
3	友達の頑張ったことや考えたことの素晴らしさに気付いた
4	自分の考えを認めてもらったり受け入れてもらえたりした
5	問題に対して自分で考えて答えた
6	友達に自分の考えが言えた

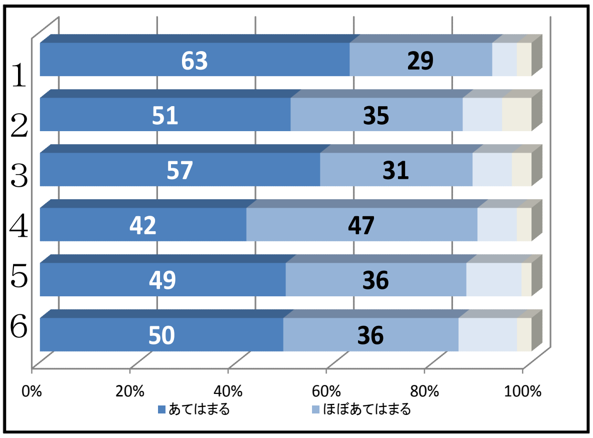


図８　児童アンケートの結果　（５年）

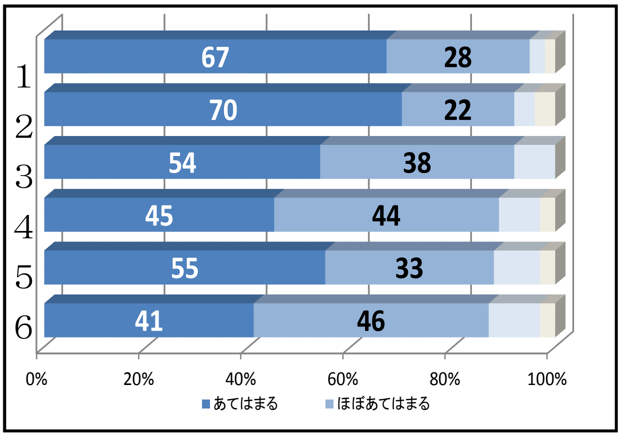


図９　児童アンケートの結果　（６年）

図８、図９から、約８～９割の児童が、「分かった・できた」、「楽しい」と感じた場面があったり問題に前向きに取り組めたりして、学習意欲の向上が見られた。また、自分の考えを発表し合える場を設定したことで、自分の考えを認められたり受け入れられたりして、成就感や安心感を味わうことができたと考える。また、実践１の児童の感想（表６）から、児童は教師からの意図的な関わりを実感することができた。

表６　児童の感想（算数）

・やり方が分からないとき、先生に声をかけてもらった。
・問題をやって答えが出たときは、うれしい。
・新しいことを知ることは、楽しい。
・やり方が分からないとき、友達に教えてもらった。
・自分の考えを言ったとき、友達に「いい考えだね」と言ってもらえてよかった。
・算数でトップになりたい。難しい問題に挑戦したい。

さらに、もっと学びたいという意欲の向上とより良い人間関係の構築、自己肯定感の高まりと自己決定による喜びが見られた。

(2)　「自己評価シート」「C&S質問紙」の分析

「生徒指導の三機能が高まったか」や「居心地のよい学級集団になったか」を検証した。

第５学年の「自己評価シート」の結果から、各機能の数値が実践前から実践後で増加した（表７）。

次に、「C&S質問紙」の結果から、自分自身のことに関する質問では、クラスの活動について自分たちで決めて行動していると感じている児童が増加した（図10）。

学級のことに関しては、８割以上の児童が何でも話せる雰囲気があり（図11）、友達同士で相談し合えていると答えた（図12）ことが分かった。また、友達同士のもめ事で互いに解決策を見いだしたり、友達の失敗を相手の立場で考えられたりする児童も増加した。これらのことから、安心して自分の考えや思いを表現できる居心地のよい学級になったと感じている児童が増えたことが分かった。

第６学年の「自己評価シート」の結果から、実践１の実施後に「A 自己評価・自己受容」、「B 関係の中での自己」の数値がやや減少した。実践２の前では、数値がさらに下がった。このままでは、各機能の数値が減少することが予想されたので、実践２で各教科にわたり担任が意識して関わったり児童同士で認め合いの場を設定したりした結果、実践後、各機能の数値が回復した（表８）。

「A 自己存在感」に関する質問の結果から、自分のことについて、今の自分を受け入れ、大切な存在であると実感している児童が増加した（図13）。

学級に関して、他の人の気持ちが分かる児童もやや増加している（図14）ことから、相手のことを考えながら、自分で判断し行動できるようになってきているのではないかと考える。また、９割以上の児童が友達同士で相談し合

表７　「自己評価シート」の結果　５年

	実践前	実践後
自己評価・自己受容	2.84	2.86
関係の中の自己	3.04	3.33
自己主張・自己決定	2.82	3.14

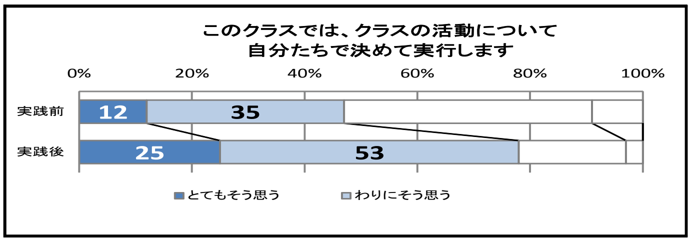


図10　自己決定に関する質問の結果　５年

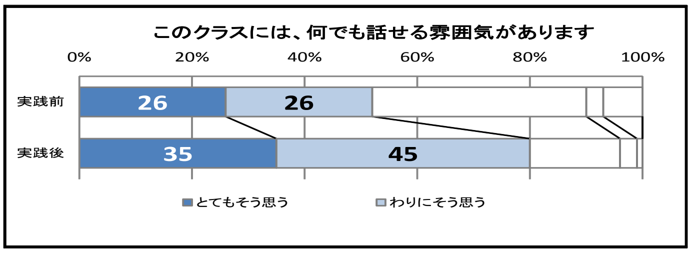


図11　学級の雰囲気に関する質問の結果　５年

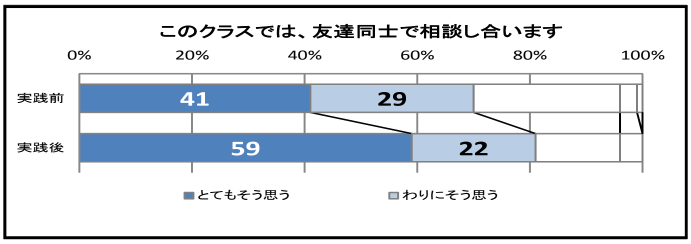


図12　学級の雰囲気に関する質問の結果　５年

表８　「自己評価シート」の結果　６年

	実践前	実践後
自己評価・自己受容	2.84	2.81
関係の中の自己	3.3	3.24
自己主張・自己決定	3.15	3.16

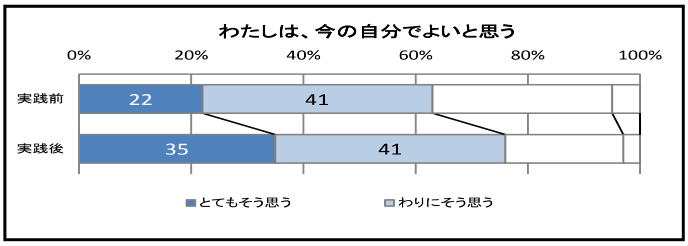


図13　自己存在感に関する質問の結果　６年

えていると肯定的に回答していることから、何でも言いやすい学級の雰囲気によってより良い人間関係が築けていると感じているのではないかと考える。

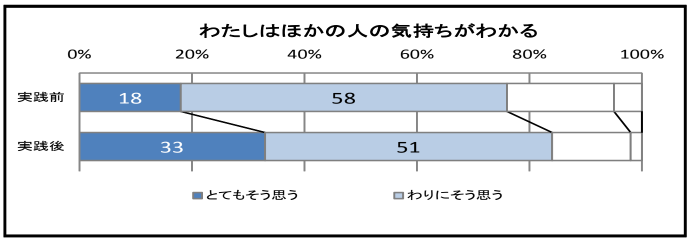


図14　学級の雰囲気に関する質問の結果　６年

２　「Ｔ－knackシート」は、教師が授業における生徒指導を意識して取り組む上で有効なシートとなったか。

表9　教師の感想

- 授業での生徒指導の三機能を生かした手立てというものが分かった。これからは意識して手立てを取り入れ、授業を行いたい。
- 生徒指導の三機能を生かした手立てになっている。様々な場面で教師と児童のやりとりが具体的に会話(吹き出し）文で書かれており、分かりやすい。
- 授業における生徒指導の大切なことがまとめられているので、授業中も手元に置いて活用したい。

「Ｔ－knackシート」を読んだ感想として、「吹き出しが多く、教師のボキャブラリーが増えそうでとてもいい」、「いろいろな参考文献をまとめたものだから、客観性も高いと思う」、「私（拠点校指導教諭）が担当している初任者はもちろんだが、生徒指導のノウハウを学ぶ資料として小学校の先生方に是非読んでほしい」などが挙げられた（表９）。

また、シートを活用した教師の聞き取り調査から、「発問するときに選択肢を与えることを取り入れた」「発表された方法や考え方を読み取らせ、他の児童に説明させることを心掛けて行い、多くの児童の活躍の場を増やした」「自分の考えがまとめられるように振り返りの時間を十分確保した」など、自分の学級の実態にあったシートを意識して授業に取り入れることができたという意見が聞かれた。

さらに、若手教師からは、「このシートを手元に置いて、意識して授業を進めたい」や、「授業における生徒指導を意識して一人一人の児童と接したり授業展開を考えたりしたい」などの感想を得ることができた。ベテランや中堅教師からは、「実際に、『授業における生徒指導』と言われると何のことかはっきり言えなかったが、このシートを見て『ああこういうことか』と分かった」、「自分も授業における生徒指導は取り入れていたんだ。それを意識して行うことが大切なんだと感じた」、「自分が実際行ってきた指導を、シートを読むことで認識を新たにした」などの感想を得ることができた。

これらのことから、教師が日頃から心掛けていることや、手立てとして取り入れていることをシートにまとめることができたと考える。また、授業を積極的な生徒指導を実践する場として捉えることの大切さや、生徒指導の大切さを再認識してもらうことができたと考える。

Ⅵ　研究のまとめ

１　成果

○　アンケート調査から学級全体の傾向と児童一人一人の傾向を把握し、学級経営の在り方と個別指導の方向性を見直すことができた。そして、「Ｔ－knackシート」を意図的・計画的に取り入れて授業を実施したことで、児童の学習意欲の向上が見られ、仲間との認め合いや学ぶ楽しさを実感し、自分の思いや考えを表現できるようになった。さらに、児童同士の認め合いの場や機会を多く取り入れることによって、児童同士のより良い人間関係が築け、居心地のよい学級集団の育成につながった。

○　個々の教師が授業に取り入れてきた生徒指導の手立てを「Ｔ－knackシート」としてまとめ、提供したことで、若手教師に生徒指導の手立てを伝授することができた。また、若手教師だけでなく、ベテランや中堅教師にも参考となる手立てとして再確認してもらうことができた。

２　課題

○　授業における生徒指導について、校内研修で話し合ったり情報交換したりする際の資料の一つとして「Ｔ－knackシート」を活用するなど、内容のさらなる工夫や改善をする必要がある。

Ⅶ　提言

○　アンケート調査を実施して、児童の実態を客観的に把握する

「自己評価シート」は、研究協力校の教師からも客観性や信頼性が高かった。教師の日常観察に加え、このアンケートを実施して生徒指導の三機能の傾向を把握し、生徒指導に取り組むと、安心して自分の考えや思いを表現できる学級集団の育成につながると考える。

＜引用文献＞

・岩手県立総合教育センター　「『授業が変わる　生徒が輝く』－生徒指導の機能を生かした授業づくりの手引き－」(2005)　Ｐ６

＜参考文献＞

・東京都教職員研修センター　「自信　やる気　確かな自我を育てるために」－子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料－(2012)
・岩手県立総合教育センター　「授業における生徒指導」(2007)
・新潟市教育委員会　「授業づくりと生徒指導の一体化を目指して」(2014)
・神奈川県立総合教育センター　小学校初任教師のための授業づくりハンドブック (2009)
・岡山県総合教育センター　「ともに創ろう　おかやまの未来　－見て分かる教師ガイド－」(2011)
・岡山県総合教育センター　「学び合いを促進する教師の関わりについての研究」(2012)
・香川県教育委員会　「さぬきの授業　基礎・基本　～子どもに学びのときめきを～」(2013)
・千葉県教育庁南房総教育事務所　「活用する力を高めるセルフチェックシート」(2008)
・藤岡市立美土里小学校　「確かな学力を身に付けた児童の育成」 (2008)
・池田　隆　　北野　和則　著　『自ら学ぶ意欲を育む生徒指導の在り方に関する研究』(2012)
・滝　充　著　「教科授業の改善を通して　生徒指導の推進」　　『生徒指導学研究』第６号(2007)
・桜井　茂男　著　『学習意欲の心理学』　　誠信書房(1997)
・河村　茂雄　著　『カウンセリングテクニックで極める教師の技　授業の技を極める４０のコツ　授業スキル小学校編』　図書文化(2005)
・首藤　博史　著　「『総合的な学習の時間』における内発的学習意欲の向上を目指した実践研究」(2005)
・野中　信行･井上　雅一朗　著　『新卒教師時代を生き抜く授業術　クラスが激変する日々の戦略』明治図書(2014)
・松原　達哉　著　『カウンセリングを生かした授業づくり』　　学事出版(1998)
・加藤　辰雄　著　『誰でも成功する言語力を高める話し合い指導』　　学陽書房(2014)
・岸　俊彦・水上　和夫・大友　秀人・河村　茂雄　著　『意欲を高める　理解を深める　対話のある授業　教育カウンセリングを生かした授業づくり』　　図書文化(2013)
・小久保　裕之　　石郷岡　亜矢子　　松本　崇　　小堤　紀子　学校教育相談研究会議「子どもの成長発達を促す言葉かけとは　－教師の気づきを重視した振り返りを通して－」(2007)
・河村茂雄　著　『教師のためのソーシャルスキル』　　誠信書房(2002)

＜担当指導主事＞

古暮　清二　　竹田　美保